

# うじな通になろう



うじな通検定テキスト





宇品のまち並み(宇品四丁目電停付近) 平山 文俊さん



## はじめに

明治時代に行われた宇品港の建設計画により、埋め立てられてできたのが宇品地区です。宇品地区は、その時代ごとにさまざまな役割を果たしてきました。

この宇品地区のことをたくさん知って「好きです宇品ファン」を育てる目的として作成した「うじな通になろう」には、これまでのうじなの歴史を調べて載せました。

ご家庭で、学校で、お友達と共に検定に参加して、自分の住むうじなのまちへの関心を深め、さらに宇品を楽しんでみませんか。



「うじな通」検定実行委員会 委員長 竹田 勇

題字「うじな通になろう」=竹田 勇

## 【目 次】

写真でみる宇品	項	地図番号	
<b>字品年表</b>			
<b>§ 1. 港の歴史</b>	-----	-----	
1-1 宇品港をつくる	-1-		
1-2 軍港として	-2-		
1-3 海の玄関として	-2-		
<b>§ 2. 原爆と平和</b>	-----	-----	
2-1 被爆建物	-3-		
2-2 被爆からの復興	-4-		
<b>§ 3. 寺院・神社</b>	-----	-----	
千曉寺	-5-	A-1	
法眞寺	-5-	A-2	
善徳寺	-5-	A-3	
法雲寺・山門	-6-	A-4	
神田神社	-6-	A-5	
觀音寺	-6-	B-1	
<b>§ 4. 史跡・遺跡</b>	-----	-----	
4-1 築港関連遺跡	千田貞暁像	-7-	A-6
4-2 戦争遺跡	平和塔(鷹の記念碑)	-7-	A-7
	宇品陸軍糧秣支廠(広島市郷土資料館)	-7-	A-8
	宇品陸軍糧秣支廠倉庫のモニュメント	-8-	A-9
	陸軍船舶司令部跡	-8-	A-10
	陸軍桟橋	-8-	A-11
	宇品凱旋館跡	-9-	A-10
	あかつき(暁)橋(旧めがね橋)	-9-	B-2
4-3 交通施設関連遺跡	旧国鉄宇品線の概要	-10-	
	旧国鉄宇品線宇品駅ホーム跡	-10-	A-11
		-10-	A-12
		-10-	A-13
	宇品線跡地を生かそう!	-11-	
	路面電車旧宇品線のなごり道	-11-	A-14
	宇品小学校の桜土手	-11-	A-15
	運河計画跡	-12-	A-16
4-4 その他の史跡・碑	広島水上警察署	-13-	A-17
	中国配電南部変電所	-13-	A-18
	唱歌「港」の記念碑	-13-	A-10
	宇品御幸通りと御幸松記念碑	-14-	A-19
	陸軍桟橋の歌碑	-14-	A-11
	パラダイスの塔	-14-	A-11
	正岡子規の句碑	-14-	A-6
<b>§ 5. 施設</b>	-----	-----	
5-1 公共施設		-15-	
5-1-1 公園	千田廟公園	-15-	A-6
	宇品波止場公園	-15-	A-11
	宇品中央公園	-15-	A-10
	御幸松公園	-15-	A-20
	宇品の公園通になろう!!	-16-	
	広島みなと公園	-18-	A-21
	宇品西公園	-18-	A-22
	宇品第一公園	-18-	A-23

5-1-2 学校・官庁・病院等	宇品第二公園 宇品小学校 宇品東小学校 元宇品小学校 宇品中学校 広島県立広島大学・県立広島女子大学 広島都市学園大学 宇品公民館 広島市郷土資料館	-18- -19- -19- -19- -19- -20- -20- -20- -21-	A-24 A-25 A-13 B-3 A-26 A-27 A-28 A-29 A-8
5-1-3 交通関連施設	こうわん 広島港湾合同庁舎 第六管区海上保安本部 県立広島病院 広島港	-21- -21- -21- -22-	A-30 A-30 A-31 A-32
5-1-4 その他	がいぼう 宇品外貿ふ頭 宇品灯台 広島港入口赤灯台 広島高速道路3号線 広島電鉄宇品線	-22- -22- -22- -23- -23-	A-33 B-4 B-5 A-34 A-35
5-2 民間施設	みゆき 御幸橋 でじま しょり じょう 出島処理場 けいりんじょう 広島競輪場 出島福祉センター 出島屋内プール 宇品体育館	-23- -23- -24- -24- -24- -24- -24- -25-	A-36 A-37 A-38 A-39 A-40 A-41 A-42
5-2-1 工場等産業施設	マツダ(株)本社工場宇品地区	-25-	A-43
5-2-2 商業施設	くまひらせいさくしょ 株式会社 熊平製作所 宇品ショッピングセンター 宇品西地区の大型ショッピングセンター 宇品東地区の大型ショッピングセンター 船田船用品 株式会社 株式会社 酒商山田 元気もりもり たかもり グランドプリンスホテル広島	-25- -25- -25- -26- -26- -26- -26- -26- -26-	A-44 A-45 A-46 A-47 A-48 A-49 B-6
<b>§ 6. 生活と行事</b>	広島みなと祭り 夢 花火大会 神田神社の秋まつり	-27- -27- -27-	A-33 A-5
6-1 まつり	おどり 宇品踊り 宇品だんご かつぱえびせん	-27- -28- -28-	A-50
6-2 宇品の料理・菓子		-29-	
<b>§ 7. 自然と歴史</b>	元宇品(宇品島) 元宇品の自然 元宇品の歴史 元宇品の魅力スポット	-29- -29- -29- -30- -30- -30-	B-7 B-8 B-9 B-10
7-1 元宇品の自然と歴史	元宇品公園案内図	-31-	
7-2 金輪島の自然と歴史		-32-	
<b>§ 8. 人物</b>		-33-	
8-1 築港	千田貞暁	-33-	
8-2 教育	田中イト	-33-	
8-3 芸術	近藤芳美	-34-	
8-4 スポーツ	旗野十一郎 吉田信太 安芸ノ海	-34- -34- -34-	

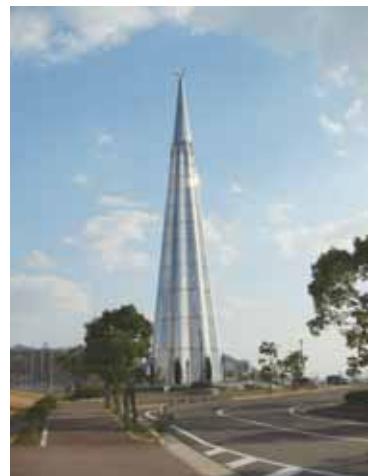
### 唱歌「港」

Aマップ宇品地区  
Bマップ元宇品地区

みなとまち宇品懐かしき情景

「うじな通になろう」の製作協力者  
「うじな通」検定実行委員会委員

# 写真でみる宇品



## 自然と歴史の みなとまち宇品



# 宇品年表

## 西暦 元号

## で き ご と

1871年 明治4年		はいはんちけん 廢藩置県
1880年 13年	せんた きだ あき	ひろしまけんちじ はんれい 千田 貞暁氏 広島県知事(当時は県令)として着任
1884年 17年		しんかいち 宇品港と宇品新開地づくりがはじまる
1889年 22年		宇品港ができる(宇品新開地が宇品町と称される)
1890年 23年	千田 貞暁氏	にいがた 新潟県知事となる(12月)
1891年 24年		しゅんこう 宇品港竣工式(港の完成式)
1894年 27年		山陽鉄道が広島まで開通する  宇品線ができる(国からの委託で山陽鉄道が敷設)
		日清戦争が始まる(～1895年)
		だいほんえい 日清戦争、大本營が広島へ、臨時帝国議会が広島で開会
1897年 30年		宇品海岸に陸軍中央糧秣廠宇品支廠ができる  宇品小学校創設
1902年 35年	さんぱい	(石の桟橋)ができる
1904年 37年		日露戦争が始まる(～1905年)
		宇品港に陸軍運輸本部ができる(大正15年に陸軍運輸部に改称)
1909年 42年		「広島水上警察署」(明治の洋館)ができる
1911年 44年	うじなりくぐんりょうまづ しょう かんづめ	宇品陸軍糧秣支廠(缶詰工場)ができる(現在の広島市郷土資料館)
1914年 大正3年		安芸ノ海が生まれる(第37代横綱)  第一次世界大戦が始まる(～1919年)
1915年 4年		路面電車旧宇品線ができる
1932年 昭和7年		宇品港が広島港に改称される
1935年 10年		路面電車旧宇品線が現在の場所へ移設される
1939年 14年		第二次世界大戦が始まる(～1945年)
1945年 20年	げんしばくだん	広島に原子爆弾が投下される  第二次世界大戦がおわる
1966年 41年	りょかく	宇品線の旅客営業が廃止される
1970年 45年	かれぼう	宇品外貿ふ頭(1万トン級4バース)完成  元宇品海水浴場閉鎖
1975年 50年	さんぱりょかくしせつ	宇品県営桟橋旅客施設完成
1980年 55年		宇品水族館閉館
1986年 61年		宇品線が廃止される
1989年 平成元年		広島港築港100周年記念式典を開催
1998年 10年	こうわん うめたて しゅんこう	宇品内港地区港湾整備事業埋立が竣工
2003年 15年	りょかく	広島港宇品旅客ターミナル供用開始
2004年 16年		広島みなと公園完成
2009年 21年		広島港築港120周年を迎える(広島市政120周年)
2010年 22年		広島高速道路3号線、広島南道路宇品地区開通

## § 1. 港の歴史

### ◆ 1-1 宇品港をつくる

(宇品港ができたころ)

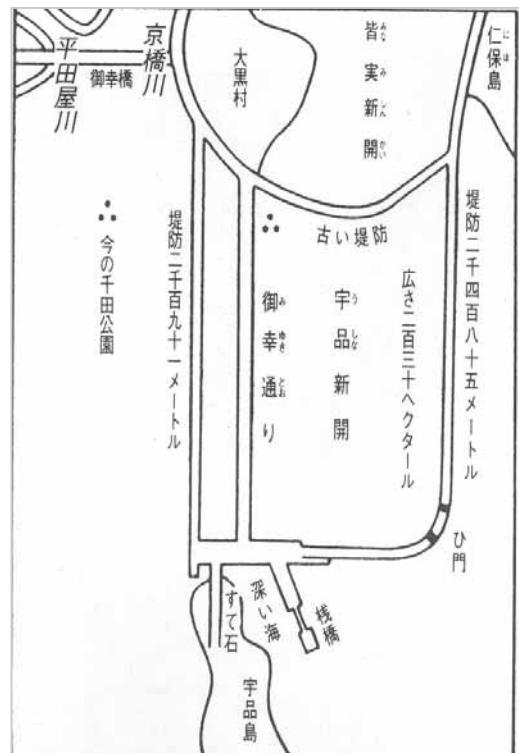
明治になって、1871年(明治4)に広島藩から広島県となり、広島に県庁がおかされました。そのころ、広島にくる大きな船は、宇品島や江波島に着いていました。そこから、人は小さい船に乗りかえ荷物もつみかえて、京橋川・元安川・本川の川岸の階段状の雁木に船を着けて積み降ろしをしていました。しかし、河口は年々あさくなり、潮がひいたときには、船がはいらないので大変こまっていました。

1880年(明治13)に県知事(1886年(明治19)まで県令)になった千田貞暉は、まだ列車がなかったので東京から船で広島に着任しました。宇品の沖で小さい船に乗りかえて皆実町の船着場に向かいましたが、海が浅く動かなくなつたので歩いて上陸しました。その後、県内を見てまわり、広島を発展させるには道路を整備し良い港を作らなければならぬと考えました。

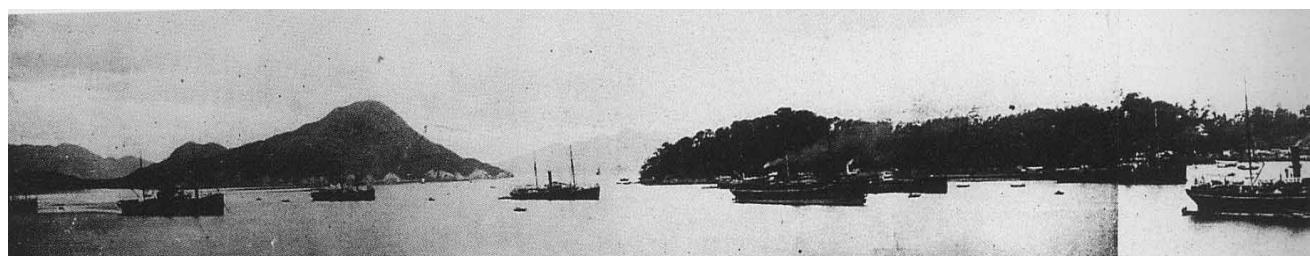
1884年(明治17)に宇品港と、港までを埋め立てて広い土地をつくる工事が始められましたが、この工事には多くの苦労がありました。漁民は、カキがとれなくなるといって、はげしく反対したのです。また、台風やたびたびの大水で堤防がこわれました。そのため、予定より完成がおくれお金も足りなくなったので、千田知事は、自分の財産までだして工事を続けました。

こうして、1889年(明治22)に宇品の港と宇品の広い土地ができあがりました。

(千田知事と宇品港より)



(宇品港をつくるころ)



(図説広島市史より)

## ◇ 1-2 軍港として

港ができてまもなくは、出入りする船も少なく、時間とお金をかけすぎたのではないかといわれました。1894年(明治27)に山陽鉄道が広島まで開通し、東京に列車で行けるようになりました。また、同じ年に清国(中国)との戦争(日清戦争)がはじまり、宇品港は、兵士や品物を中國大陸におくりだす港として使われました。このため、広島駅と宇品港をむすぶ宇品線の建設がいそいで行われ、17日間で完成しました。



(大正のころの宇品港)

その後も、ロシアとの戦争(日露戦争)、第一次世界大戦、日中戦争、第二次世界大戦と、戦争のたびに市民や家族に送られて、兵士は陸軍桟橋(今の波止場公園に残っている桟橋)から戦争を行ったのです。また、港は大陸との貿易港としての役目もしています。宇品海岸の広い土地には、軍の建物や倉庫が立ちならび、街にもぎわいました。1932年(昭和7)には「宇品港」から「広島港」へ名前が変わりました。

## ◇ 1-3 海の玄関として



(広島港宇品旅客ターミナル)  
広島港宇品旅客ターミナルは、1992年(平成4)に完成した新しい旅客ターミナルです。周辺には多くの商業施設や公園があります。

広島港は、1945年(昭和20)の終戦後には、海上輸送の「重要港湾」として、地方の産業をささえてきました。特に、1992年(平成4)には国から「特定重要港湾」に指定され広島をささえる貿易港として、また、瀬戸内海を結ぶ旅客港としての大きな役割をしています。

2003年(平成15)には、新しい旅客ターミナルが完成し、四国や瀬戸の島々を結ぶカーフェリーや高速艇がたくさんの人を運んでいます。港の西側の出島地区には、多くの貨物船が出入りして荷物を運んでいます。東側の波止場公園近くの外貿ふ頭には、ときおり大型の旅客船がやってきます。マツダ港からは完成された自動車が日本各地や外国に運ばれています。



(外貿ふ頭の旅客船)

## § 2. 原爆と平和

### ◇ 2-1 被爆建物



1945年(昭和20)8月6日8時15分に、世界で初めてアメリカが広島に原爆弾を落としてから、65年の年月が流れました。

原爆弾のすさまじい爆風と熱線により、爆心地(今の中区大手町一丁目付近)から半径5キロメートル以内にあった建物で大破したものは約95パーセントによんだといわれています。宇品地区は爆心地から約3キロメートルはなれていたため、建物の被害は

比較的軽いほうでしたが、残っていた建物も長い年月の中でしだいに取りこわされて今では下にあげた建物などが被爆の歴史を伝えています。

○宇品陸軍糧秣支廠(現・広島市郷土資料館)  
(宇品御幸二丁目)

「爆心地から約3.21キロメートル」

【説明は7ページ】

※ 昭和20年8月6日 糧秣支廠で働いていた  
15才の女生徒の記録

『雲一つない青空、いつものようにまた暑い一日が始まろうとしていた。その日も畑仕事(爆風で曲がった屋根の鉄骨:郷土資料館)の予定だったようだ。いつもより始業が少し遅れていたのだろうか、出席をとり終えたちょうどその時、八時十五分、右ななめ上方(西北の方向)できょうれつなオレンジ色のせん光、とっさに「照明弾」と小野さんが叫んだ。工場の方からゴーというもののすごいひびきと一緒に一丸となっておそってきたガラスの破片、するどい牙を瞬間にみる。』



花田三枝子、吉田久子記「広島陸軍糧秣支廠(宇品)」(『おもかげ一炎と瓦礫の中に生きて一』 広島女子高等師範学校附属山中高等女学校安浦一期会発行より抜粋)

○中国配電南部変電所(現存・宇品公民館となり)

(宇品御幸三丁目)

「爆心地から約3.79キロメートル」 【説明は13ページ】

○千曉寺(宇品海岸二丁目)

「爆心地から約4.31キロメートル」 【説明は5ページ】

○広島水上警察署(宇品海岸三丁目)

「爆心地から約4.64キロメートル」 【説明は13ページ】

## ◇ 2-2 被爆からの復興

宇品地区は、その大半が爆心地から約 3 キロメートル以上離れているため被害は比較的軽いほうで、人々は被災者の救助と町の復興に力をそぎました。中でも金輪島・似島は被災者の医療施設の拠点となり、多くの人たちが宇品港から運ばれました。

戦後、かつての広大な軍用地や施設は、民間や官庁などに払い下げられていきました。また東側はマツダによって埋め立てが行われるとともに、戦前から進められてきた西側の京橋川河口の埋め立ては戦後になって本格化し、現在の出島地区となりました。

1951 年（昭和 26）には、金輪島は仁保町から宇品町にくみ入れられ、さらに 1968 年（昭和 43）には、宇品町は宇品東・宇品神田・宇品御幸・宇品西・宇品海岸・出島となり、ほぼ現在の住居表示のようになりました。

近年の宇品地区は、商業施設やマンションなどが次々と建てられているほか、地区的南側を通る広島南道路線及び広島高速道路 3 号線の沿線を中心に、街なみが大きく変わろうとしています。



（広島南道路線と広島高速道路 3 号線）



（1964 年（昭和 39）：埋立工事の進む出島地区）

（広島みなと公園）

### § 3. 寺院・神社

#### 【日照山・千曉寺】 (鐘櫻門) A-1



宇品港の建設では、瀬戸内の島々のたくさん的人が働き苦労しました。その人達のために、時の県知事千田貞暁が 1888 年(明治 21)に浄土真宗のお寺として宇品説教場を願い出て建てました。

1945 年(昭和 20)の原子爆弾による爆風で瓦がずり落ち、建物がかたむくなどの被害を受けましたが、避難してきた負傷者の救助や、亡くなった人々の供養が行われました。 1968 年(昭和 43)に本堂は改修されましたが、被爆建物として今もなお残る貴重な木造建物です。

(爆心地から 4.31 キロメートル)



#### 【紫雲山・法眞寺】 A-2

真言宗教団のお寺で、本尊(寺の中心となる仏像)は、弘法大師で、広島新四国八十八カ所第五十二番靈場になっています。

本堂は、原爆で瓦がずり落ち建物がかたむきましたが、2003 年(平成 15)には解体されて、新しくなりました。

(爆心地から 4.1 キロメートル)



#### 【善徳寺】 A-3



1886 年(明治 19)に宇品の港建設にやって来た上蒲刈島大浦出身の浄土真宗門徒たちが、宇品海岸三丁目に真宗宇品説教所をつくりました。

1937 年(昭和 12)に宇品神田五丁目に移して再建し、1947 年(昭和 22)に本願寺より「善徳寺」の寺号の公認をうけました。そして 1984 年(昭和 59)に新しい本堂庫裡を現在地に建てました。

※庫裡とは (寺の台所、又は 住職や家族の居間)

【法雲寺・山門】 A-4



法雲寺は、1934年(昭和9)に、京都から宇品に移転してきました。

1945年(昭和20)に防火帯(延焼被害を食い止めるための空地)を造るため法雲寺境内の南側も疎開命令が発せられ、本堂と納骨堂は奥へ引き移されました。

原子爆弾による爆風で本堂の柱1本が折れ、東側にかたむき、1985年(昭和60)には建て替えられました。山門は本堂の陰になり倒壊はまぬがれましたが、屋根瓦は吹き飛ばされました。1995年(平成7)には解体され現在のものに新築されました。

(爆心地から3.66キロメートル)



【神田神社】 A-5



1503年(文亀3)銀山城の城主の武田元繁は当時祇園武田山に城をかまえ安芸の地を治めていました。城の守り神として武田氏の祖國甲斐の国(今の山梨県)から、東区牛田のスポーツセンターの北側に奉られました。その後、武田氏は時の戦国武将毛利元就に敗れ社殿は荒れはてました。孫の毛利輝元が広島城を建て入城し、1591年(天正19)に神田神社を再建しました。

今も牛田に神田山や神田橋という名が残っています。

1889年(明治22)に牛田が陸軍の軍用地となつたため、宇品新開地(現在の宇品神田五丁目)に移転され、完成を祝い、神田通り、春日通り、八幡通りなど神社にちなんだ名前が付けられました。1900年(明治33)に台風による津波で大破したため1931年(昭和6)に現在の宇品御幸四丁目に新築移転されました。その後1985年(昭和60)に不慮の火災により消失しましたが、1986年(昭和61)に2億3千万円の淨財で再建されました。

【観音寺】 B-1



本堂に安置されている阿弥陀如来像は室町時代の作と言われ、広島市重要文化財に指定されています。

境内には1619年(元和5)に紀州和歌山から広島城主として江戸時代初期に広島にやって来た浅野長晟は妻の振姫(徳川家康の三女)1617年(元和3)に病死)がこよなく愛していたツバキを何

本か広島を持って来て植えました。原爆で焼失したため現在は観音寺にあるもののみで、赤桃白の絞り模様の花が3月頃に咲き、ヒロシマツバキと呼ばれ、大切にされています。



## § 4. 史跡・遺跡

### ◇ 4-1 築港関連遺跡 【千田貞暎像】 A-6



宇品築港の功労者「千田貞暎」の銅像です。1880年(明治13)に広島県知事(当時は県令)として広島に着任した彼は、広島の土地のようすから海を利用した運搬が重要だと考えて、宇品港を作りました。この銅像は、彼の偉業をたたえて1915年(大正4)に建てられたもので、右手には港の設計図を持っています。千田廟公園内の銅像の隣には宇品新開地記念碑がありますが、銘板は戦時中に供出されています。



### ◇ 4-2 戦争遺跡 【平和塔】(鷹の記念碑) A-7

1895年(明治28)に御幸通りに仮設の凱旋門が作られ帰還兵が日清戦争戦勝に沸く市民に迎えられました。翌1896年(明治29)に義援金でこの碑(旧称:日清戦争凱旋碑)が建てされました。

1947年(昭和22)には、「日清戦争凱旋碑」の碑銘の上にセメントを塗り「平和塔」ときざまれました。



### 【宇品陸軍糧秣支廠】広島市郷土資料館 A-8



倉庫・糧米所などと合せて1911年(明治44)にレンガ造の缶詰工場として今の地に建てられたのが宇品陸軍糧秣支廠です。糧秣の糧は兵士の食糧、秣は軍馬のエサを意味します。

最盛期には3500人の従業員が働いていました。被爆時、爆風で建物の窓硝子が割れ、屋根の鉄骨を曲げるほどでしたが被害は軽かったため、市内の被爆者の救護所として利用されました。1985年(昭和60)に広島市重要有形文化財に指定され、同じ年に、広島市郷土資料館として開館しました。



(工場の大煙突(37m)の基礎部分)

## 【宇品陸軍糧秣支廠倉庫のモニュメント】 A-9

宇品陸軍糧秣支廠倉庫は、日清戦争が始まった 1897 年(明治 30)に宇品海岸通りに建てられました。倉庫は、兵隊の食糧や軍馬の飼料を調達、補給するために設置された建物で「宇品駅」のプラットホームに沿って建っていました。今はこの「モニュメント」だけが残っています。



(宇品陸軍糧秣支廠倉庫・原爆被災説明板)



(宇品陸軍糧秣支廠倉庫壁のモニュメント)

## 【陸軍船舶司令部跡(旧称陸軍運輸部・陸軍運輸本部)】(宇品中央公園) A-10

日露戦争の始まった 1904 年(明治 37)に陸軍部隊輸送の円滑化のため、宇品港の岸に陸軍運輸本部が設置されました。1926 年(大正 15)には陸軍運輸部に名前を変えました。旧陸軍が船舶輸送

部隊を増強するため、第二次世界大戦中の 1942 年(昭和



17) にこの陸軍運輸部などを統合し、陸軍船舶司令部(別称 暁部隊)を設けました。



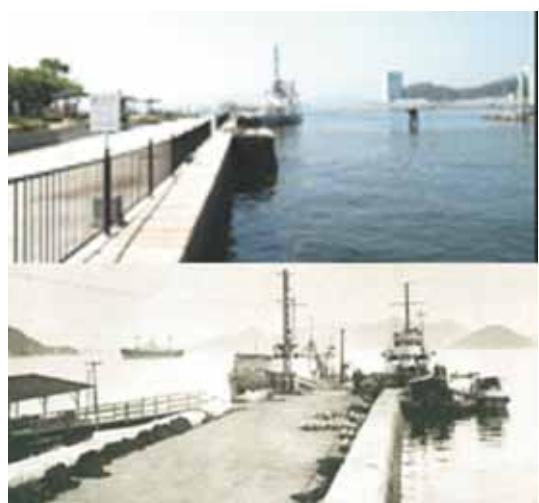
(郷土資料館提供)

## 【陸軍桟橋】 (宇品波止場公園) A-11

1889 年(明治 22)に開港された宇品港は、日清・日露戦争を契機に、第二次世界大戦が終わる 1945 年(昭和 20)まで主に陸軍の軍用港として使用されてきました。1902 年(明治 35)に建設された軍用の桟橋は「陸軍桟橋」と呼ばれ、戦争中、多くの兵士を送り出した一方、多数の無言の遺骨を迎え、広島の歴史を見守ってきた貴重な証言者でもあります。



(陸軍桟橋の碑)



(下: 広島市公文書館提供)

## 【宇品凱旋館跡】(宇品中央公園)

A-10



出征軍人・戦傷病兵の歓送迎のために、宇品の陸軍運輸部構内に凱旋館が建設され、1941年(昭和16)に完成しました。戦後は、広島海上保安本部として使用され、1974年(昭和49)まで現存していました。



(記念碑)

## 【あかつき(暁)橋】(旧めがね橋)

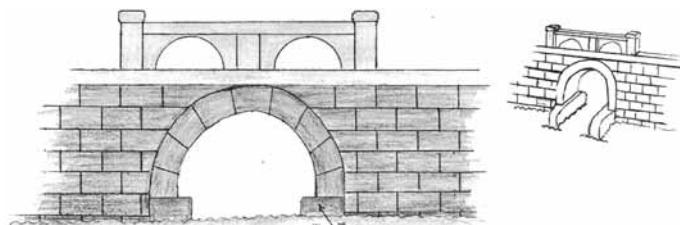
B-2

元宇品と宇品にかかる短い橋です。1889年(明治22)に宇品港が完成し、元宇品と宇品は堤防でつながれました。しかし、このことによって、仁保島の漁師達は、漁場である江波沖方面への航路を防がれて大変困り、直ちに橋の設置運動を開始しました。その結果、1893年(明治26)になって、めがね橋(スケッチ図)が実現しました。

その後、軍事の必要上、1942年(昭和17)に宇品に編成された陸軍船舶司令部(暁部隊)によってめがね橋はとりこわされ、幅の広いあかつき橋が設置されました。



現在のあかつき橋とめがね橋設置の記念碑



めがね橋のスケッチ図

(南区魅力発見委員会風土記編さん部会提供)

## ◇ 4-3 交通施設関連遺跡

しせつ いせき

### 【旧国鉄宇品線の概要】

宇品線は、1894年(明治27)の日清戦争が始まって間もなく、わずか17日間という短い期間で広島駅～宇品駅間の5.9キロメートルをつくり、軍の専用線として開業されました。第二次世界大戦など戦争のたびに宇品港から中国大陸に出征する兵隊や軍用物資(馬、車、食糧、武器など)を輸送し、大きな役割を果たしました。戦後しばらくは近くの工場や宇品港への貨物輸送、周辺官公庁や工場への通勤、学校への通学の足として利用していました。県庁(兵器支廠跡)に近い「上大河駅」(現在の広島大学病院正門付近)では1日9000人近くの乗降客があったといわれています。戦後のまちの復興や自動車等の普及とともに1986年(昭和61)に完全廃止となりました。

(大須口駅～南段原駅間:1966年(昭和41))



### 【旧国鉄宇品線宇品駅ホーム跡】

当時、日本で最長といわれた全長560メートルの宇品駅プラットホームは、今では広島高速道路3号線の建設のため取りこわされ、見ることはできません。

現在は、宇品中央公園の北側に当時のホームの石を使ったモニュメントがわずかに残っています。広島南警察署交差点の北東側に警報機、遮断機、車止め付き線路や短いホームのモニュメントが、宇品波止場公園内にも線路のモニュメントや説明板があります。また、宇品東小学校内には、創立50周年記念事業として、宇品駅のホームの一部が移されています。児童の地域学習に役立てています。

A-9

A-11



(撤去前のホーム跡)



(宇品中央公園北側のモニュメント)



(宇品波止場公園内のモニュメント)

A-12



(広島南警察署交差点付近のモニュメント)

A-13



(宇品東小学校内のモニュメント)

## 【宇品線跡地を生かそう！】

1986年(昭和61)に旧国鉄宇品線が廃止されました。その後は、宇品地区の線路敷き跡で「宇品臨港線周辺を美しくする会」によって、タチアオイなどが栽培され、1996年(平成8)から2005年(平成17)の10年間、「葵の花祭り」が開かれています。

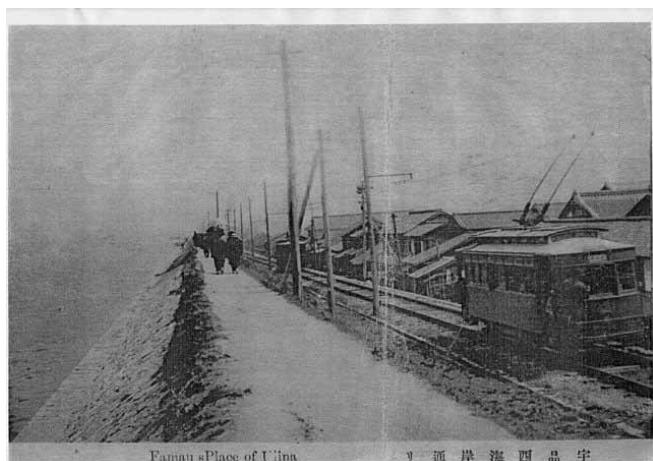
現在、この線路敷き跡は、市民のみなさんの協力を得て、菜園や市民広場などに活用し、“地域の宝”として育てていきたいと考えられています。



## 【路面電車旧宇品線のなごり道】 A-14

路面電車旧宇品線は、現在の宇品小学校の西側の土手下を走っていました。当時、土手の西向うは海だったのです。

1915年(大正4)に軌道宇品線(御幸橋東詰～向宇品)が単線開通し、1935年(昭和10)に土手下から現在の宇品通りへ移設(専売局～向宇品間)されました。



(宇品西海岸通り：写真左側は海)

## 【宇品小学校の桜土手】 A-15

路面電車旧宇品線のなごり道に植えられたものと思われる宇品小学校の西側土手の約50本の桜は、宇品の桜の名所として親しまれています。



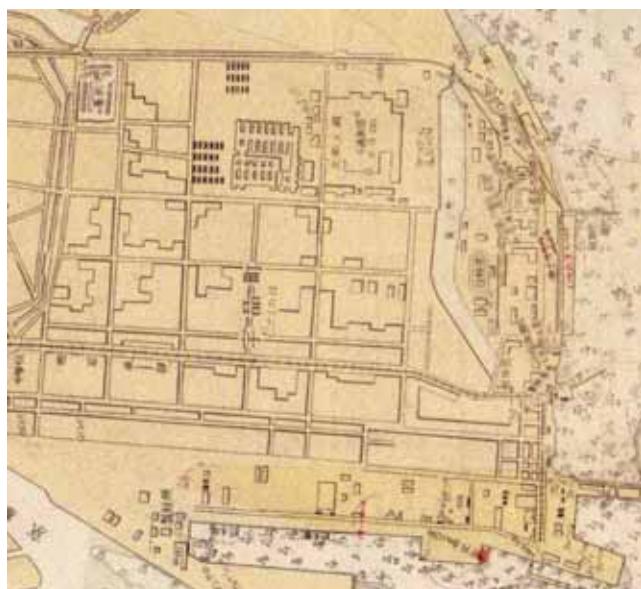
## 【運河計画跡】 A-16



広島市は、人絹工場を 1933 年(昭和 8)に宇品に誘致しました。その時、養魚場の一部が工場の物資を運ぶ運河として計画されました。

工事は、1933 年(昭和 8)に始まりましたが、運河の入口が軍用道路と交差したため、陸軍省は好意的ではなかったようで、第二次世界大戦が始まった後の 1941 年(昭和 16)に中止になりました。今も入口の石垣の一部が残っています。

※下段の海図にも旧運河跡の形が残っています。現在のダイキ・テニスコート・駐車場は、運河の形に沿ってできています。



(1947 年(昭和 22)測量の海図より)



(現在の様子)

#### ◇ 4-4 その他の史跡・碑

##### 【広島水上警察署】 A-17



1909年(明治42)に建てられた木造洋風建築物で、すべてが左右対称に造られています。外壁の塗装ははがれていますが、威風堂々と今も当時の面影をしのばせています。爆心地から4キロメートル以上はなれていたため建設当時のままこのように残っていますが、現在は使用されておらず、中には入ることができません。広島県近代化遺産に指定されています。

##### 【中国配電南部変電所】 A-18

1943年(昭和18)に宇品方面に電力を供給するために中国電力によって建てられました。原爆による被害は、窓ガラスが破損した程度で、8月7日には送電を開始することができました。今も被爆時の姿とはほとんど変わらず電車通りに面して残っており、2008年(平成20)にはイタリアンダイニングとして生まれ変わりました。歴史ある被爆建物の特徴を活かすため、外観・内装ともにほとんど手を加えられていません。

広島県近代化遺産に指定されています。

建物の前の歩道に立つ鉄骨の送電柱は今も現役として使用されています。



##### 【唱歌「港」】の記念碑

##### (宇品中央公園) A-10



1896年(明治29)以来、唱歌で親しまれてきた「港」はどの港のことを歌ったものかはつきりしていませんでした。

1973年(昭和48)に全日本海員組合の宮城伸三氏は、この歌が宇品を歌ったものであると聞かされ、あらゆる方面を調査して、宇品の歌であることを確信したため、ゆかりの地である宇品に歌碑を建て、永く地元の歌として残すことを決意しました。ただちに県、市、地元海運関係者に呼びかけた結果、高さ3.9メートル、コンクリート製で船の煙突をかたどった円筒型の歌碑が、1975年(昭和50)に宇品中央公園に建てされました。

## 【宇品御幸通りと御幸松記念碑】

1885年(明治18)に明治天皇が広島を旅行され、宇品港から乗船する際に、この通りを通過されたことを記念して宇品御幸通りと名づけられました。

また、御幸通りの南端の乗船地に植樹された松を「御幸松」と呼びました。その後、御幸松は枯れこの付近の道路が拡張されることとなつたため残った記念碑を千田廟公園に移設しましたが、2010年(平成22)の広島高速道路3号線の宇品地区完成に伴い側道の北側緑地に記念碑を再移設し松を植樹しました。



(大正末期の宇品御幸通りの写真・広島市公文書館提供)

A-19



(現在の御幸松記念碑)

## 【陸軍桟橋の歌碑】

## (宇品波止場公園) A-11



陸軍桟橋とここを呼ばれて  
還らぬ死に兵ら発ちにき  
記憶をば継げ

歌人近藤芳美の歌碑です。

陸軍桟橋から大陸、南方の戦地へと運ばれ帰らぬ人となった兵士たちの思いをうたつたものです。

近藤芳美は第二次世界大戦の中 1940年(昭和15)に、この宇品から戦地に行きました。最近まで中国新聞の歌壇欄の選者を勤めました。

## 【パラダイスの塔】

## (宇品波止場公園) A-11

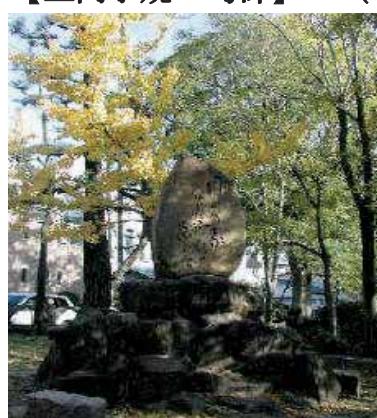
パラダイスの塔は“広島がすべてを映す光輝く都市になるように”と「'89海と島の博覧会・ひろしま」広島市西区商工センターのメイン会場のシンボルタワーとして設置されたものです。

その後、1989年(平成元)の広島港築港100周年記念モニュメントとして、1991年(平成3)に宇品波止場公園に移設されました。



## 【正岡子規の句碑】

## (千田廟公園) A-6



(正岡子規の句碑)

この句碑は、1922年(大正11)に建てられ「行かばわれ筆の花散るところまで」と刻まれています。当時、新俳壇で注目されていた正岡子規が日清戦争の中、大日本新聞社従軍記者として1895年(明治28)に軍用船で宇品から出発した時の句です。

## § 5. 施 設

### ◇ 5-1 公共施設

#### 5-1-1 公園

【千田廟公園】 A-6



宇品港を作ることに決めたのは広島県知事だった千田貞暁でした。彼の偉業をたたえて千田廟社、千田貞暁銅像、宇品新開地記念碑などがこの公園に建てられています。この公園では、命日の4月23日に「千田翁遺徳顕彰祭」が毎年行われています。



【宇品波止場公園】 A-11



この公園には、旧陸軍桟橋、陸軍桟橋の歌碑、旧国鉄宇品線モニュメントやパラダイスの塔があります。また、公園のそばには大きなクルーズ客船が来航し、外国人の観光客もたくさん訪れます。

【宇品中央公園】 A-10



宇品中央公園は陸軍船舶司令部跡地で軍関係の碑がわずかにその面影を残すだけとなっています。

右の写真の「平和の礎」の碑は、当時広島港から出港していった広島県出身者の多くが、戦争の後も強制抑留されたことを、ここにしるし、世界の平和と広島が国際平和港として発展することを願って建てられました。

【御幸松公園】 A-20



この公園は、1889年(明治22)に完成した宇品港桟橋の取り付け位置(1ページの地図参照)にあたり、初代御幸松が、北隣に植えられていたことから、この名前がつけられました。

# 宇品の公園通になろう!!

宇品地区には20カ所以上の公園があります。それぞれの公園にはたくさんの木が植えられており、植物の観察やいこいの場所になっています。樹木の紹介は1公園1種ですが、このマップを持って宇品の公園めぐりをしてみると、ますます楽しい宇品のまちが見えてきますよ。

**宇品西公園  
タイサンボク モクレン科 (5~6月)**  
常緑高木 葉の裏面に光沢(こうたく)があり鉄さび色の毛が密生(みっせい)して、白い大きい花が咲きます。



**出島公園  
サルスベリ  
ミソハギ科 (7~9月)**  
落葉小高木 花は淡紅色(たんこうしょく)で紅色、白色、紫色などで花びらにしわが多いです。



**出島東公園  
シュロ (ワジュロ)  
ヤシ科 (5~6月)**  
雌雄異株(しゆういしゅ)  
幹(みき)は円柱形で暗褐色(あんかっしょく)の繊維(せんい)におおわれて、花は巨大な数の子のような花穂が垂れ下がってつきます。

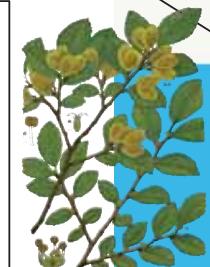


**宇品第六公園  
クロガネモチ  
モチノキ科 (5~6月)**  
常緑高木 雌雄異株(しゆういしゅ)  
若い枝は黒っぽい紫色で、赤い果実は美しいです。



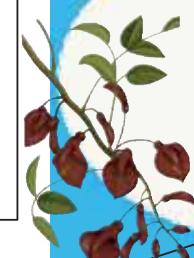
郷土資料館

**出島西公園  
アキニレ  
ニレ科 (9月ごろ)**  
落葉高木 花は淡褐色で鱗片状(りんぺんじょう)にはがれ、その後がまだらになります。



**宇品西第一公園 (更地)**

**広島みなと公園(西)  
アメリカディゴ  
(カイコウズ)  
マメ科 (6~9月)**  
落葉低木~小高木  
鹿児島県の県木。  
花は蝶形(ちょうけい)で旗弁(きべん)が下側になります。



埋め立て中



**広島みなと公園(東)  
ホルトノキ ホルト  
ノキ科 (7~8月)**  
常緑高木 樹皮は灰褐色(はいかっしょく)で不規則(ふきそく)にはげ、古い葉は赤く色づいて落葉します。



**宇品海岸第一公園  
マテバシイ ブナ科 (6月)**  
常緑高木 雄花の穂は数個ずつ集まって斜め上向きにつき、ドングリは食べられます。



**御幸松公園  
カイズカイブキ ヒノキ科 (4月)**  
常緑高木  
枝がらせん状(のびて幹に巻くため)で木全体がねじれた樹形になり、ナシやリンゴの病気である赤星病を媒介します。



**千田廟公園**  
**アオギリ アオギリ科**  
(6~7月) 落葉高木  
丈夫で成長がはやく、  
樹皮(じゅひ)はなめらか、果実は熟(じゅく)  
す前に5つに裂開(れつかい)りし、そのふちに  
種子ができます。

**宇品第一公園**  
**ユーカリ フトモモ科**  
(3~11月)  
樹皮はなめらかで長いひも状にはがれる。  
葉は幼木(ようぼく)では互生(ごせい) 成葉  
では対生です。

**宇品東第一公園**  
**メタセコイア (アケボノスギ)**  
**スギ科** (2~3月)  
落葉高木  
1945年に揚子江(ようすこう)の奥地で発見され、生きた化石として有名です。樹皮は赤褐色(せきかつしょく)で薄くはがれ、幹はまっすぐにのび、整った円すい形になります。

**宇品第二公園**  
**シンジュ (ニワウルシ)**  
**ニガキ科**  
(7~8月)  
落葉高木  
雌雄異株(しゆういしゆ)  
葉はウルシに似て大形の奇数羽状複葉で、  
果実は翼果(よくか)です。

**宇品東第二公園**  
**ケヤキ ニレ科**  
(4~5月)  
落葉高木 扇(おうぎ)を開いた  
ような樹形が美しい。病害虫に  
強く、葉のふちはざざざがあり、  
基部の左右がふぞろいになる  
ことがあります。

**宇品第四公園**  
**サンゴジュ スイカズラ科** (6~7月)  
常緑高木 生垣(いけがき)として広く植えられ、葉は厚く光沢があり、果実はサンゴ色に見えます。

**宇品第三公園**  
**モミジバフウ (アメリカフウ)**  
**マンサク科**  
(4月)  
落葉高木  
若い枝にコルク質の翼(よく)があります。

**宇品中央公園**  
**ノダフジ マメ科** (4~6月)  
落葉性のつる性の木本(もくほん)、葉は奇数羽状(うじょう)複葉です。

**宇品海岸第二公園**  
**ハナゾノツクバネ ウツギ スイカズラ科** (5~11月)  
半落葉または常緑の低木。根元から  
よく枝分かれします。  
花は正月の追いばねの羽に似ています。

**宇品波止場公園**  
**ハマヒサカキ ツバキ科** (2~4月)  
常緑低木 雌雄異株(しゆういしゆ)  
よく枝分かれし、若枝に  
褐色(かっしょく)の毛  
が多いです。

植物のイラストは「牧野日本植物図鑑」より

※解説中の月(○月~○月)は、花期を示す

南区魅力発見委員会 風土記編さん部会提供

## 【広島みなと公園】 A-2 1

広島港は、広島の海の玄関口、フェリー、市内電車などの交通機関の発着場として大切な役割を果たしています。

広島港の隣にあるこの公園は、震災時の物資輸送拠点・避難場所などの防災拠点にもなっています。

公園内の休憩所には人影が絶えず、日曜日にはフリーマーケットや出店が立ち並ぶこともあります。



## 【宇品西公園】 A-2 2

宇品陸軍糧秣支廠の跡地で、現在は郷土資料館の樹木と一体となってたくさんの種類の高木が見られます。また、広い運動広場があり、スポーツを楽しむ子どもたちがたくさんいます。



## 【宇品第一公園】 A-2 3

宇品第一公園の東側には国鉄宇品線の跡地があり、今の南警察署付近は以前は海岸でカブトガニが多く見られました。また、北側に沿って桜の土手(江戸時代に埋立てた海岸線)が現在の県立病院付近まで続いていました。公園内では、たくさんの花木を楽しむことができます。



## 【宇品第二公園】 A-2 4

神田神社と宇品公民館のとなりにある宇品第二公園には、藤棚があり市民の憩いの場所として遊具を楽しむ子どもがたくさんいます。



## 5-1-2 学校・官庁・病院等

### 【宇品小学校】 A-25



1889(明治22)に宇品港が完成し、宇品新開地ができるとともに、1897年(明治30)には、地区の人々の援助により広島市立宇品尋常小学校が創設されました。

創立当時は宇品神田五丁目にあり、児童数86名、教職員3名で始まりました。現在の位置に移ったのは1928年(昭和3)です。

現在児童数は約1,000名。「心豊かにたくましく生きる力を育成する」を教育目標としています。

### 【宇品東小学校】 A-13



宇品東小学校は、1955年(昭和30)に宇品小学校から分かれてできました。学区の1/4はマツダ、さらに1/4は県立病院、県立大学等の官公庁、企業が占め、残る半分が民家となっています。広島湾に浮かぶ金輪島はこの学区内です。

現在児童数は約600名。「自ら求め 心豊かに たくましく生きる子どもを育てる」を教育目標としています。

### 【元宇品小学校】 B-3



元宇品の学校教育は、明治7年の観林舎からはじまり、「松坂家」の座敷を教室として利用するなど形を変えながら、1891年(明治24)に仁保島村立宇品尋常小学校が設立され、30余名の4年生までの複式学級でスタートしました。

現在の元宇品小学校は、1948年(昭和23)に「神さん松」とすうはい崇拝していた大山(現在地)に創立開校しました。

現在児童数は約100名。「自ら学び考える子・他をおもいやる子・自然の美しさを大切にする子」を教育目標としています。

### 【宇品中学校】 A-26



1947年(昭和22)に現在の宇品小学校の一部を借りて、生徒数151名、教師6名で「広島市立第四中学校」としてスタートしました。

1949年(昭和24)に「広島市立宇品中学校」と改称し、現在の県立広島大学旧校舎に移転しました。現在の位置に移転したのは、1961年(昭和36)で、3教室の鉄筋校舎が建ちました。

現在の生徒数は約600名。「人間性豊かで、たくましく未来を切り拓いていく生徒の育成」を教育目標としています。

## 【広島県立広島大学・県立広島女子大学】 A-27

この大学の歴史は、1920年(大正9)に設置された県立高等女学校専攻科に始まります。これを母体として1928年(昭和3)には、広島女子専門学校が誕生しました。女子に対する高等教育がそれほど一般的でなかった戦前の時代から西日本有数の教育機関として、多くの優秀な人材を世に送り出してきました。戦後は、新しい時代の流れに対応しつつ、1950年(昭和25)に広島女子短期大学、1965年(昭和40)には、文学部、家政学部の2学部からなる女子大学へと発展し、1995年(平成7)に両学部は国際文化学部、生活科学部として新たなスタートを切りました。さらに、県立広島女子大学は2005年(平成17)に、広島県立大学(庄原市)・広島県立保健福祉大学(三原市)と統合し、県立広島大学となりました。



## 【広島都市学園大学】 A-28

広島で初の看護系私立大学として2009年(平成21)に健康科学部看護学科が開学しました。少子高齢化現象が急速に進む現在の日本社会において、学術・文化を通して平和都市・広島から命の大切さを世界に向けて発信し、社会貢献できる心と技を備えた人間性豊かな看護師の育成を目指します。



## 【宇品公民館】 A-29



戦後の復興時は、市役所の支所が併設され、住民への行政サービスと地域住民の交流の場となっていました。その後、社会教育、生涯学習の場として中心的役割を果たしました。2001年(平成13)に改築され機能が充実し、現在100団体を越える市民グループ・地域団体が定期的に活動しています。

また、魅力あふれる宇品の歴史と自然を愛する「好きです、宇品ファン」を育てるため、うじな通検定実行委員会では、うじなの「まち歩き」や「うじな通検定試験」を行っています。

## 【広島市郷土資料館】 A-8



広島市郷土資料館の建物は、陸軍用の食糧を集めたり作ったりする施設の缶詰工場として、1911年(明治44)に建てられました。そのころには「陸軍糧秣支廠」とよばれていました。1945年(昭和20)8月6日には原爆の被害にあいましたが、大きくこわれることはなく、その後も民間の食品工場として使われていました。そして1985年(昭和60)になって、広島市周辺の人々の暮らしを中心に紹介する資料館に生まれかわりました。また赤レンガの積み方がすぐれていることから、広島市の文化財に指定されています。

## 【広島港湾合同庁舎】 A-30

第六管区海上保安本部をはじめとし、広島地方海難審判所、  
広島検疫所、広島税関支所など海や港に関する行政機関が集まっている庁舎です。



## 【第六管区海上保安本部】 A-30



第六管区海上保安本部は、広島県、岡山県、山口県東部、香川県、愛媛県を担当し、その海域は瀬戸内海の大部分と宇和海です。

また、瀬戸内海は昔から九州やアジアと関西から東側を結ぶ大切な航路で、中国と四国、本土と離島、離島同士を結ぶ大切な交通でもあるため、多くの船舶が通行する危険な場所でもあります。

この海の船舶交通の安全、海の事件発生の時の救助活動、海上犯罪の取り締まり、海の安全を守ることを使命とし、周辺地域住民の安全と安心のために働いています。

広島地区は広島海上保安部が守っています。その区域は、広島県の西部4市9町(広島市・廿日市市・大竹市・安芸高田市・安芸郡・山県郡・佐伯郡)と山口県の東部2市8町1村(岩国市・柳井市・玖珂郡・大島郡)です。

## 【県立広島病院】 A-31

1877年(明治10)に公立広島病院として水主町(現・中区加古町)に創立しました。原子爆弾による焼失という悲しい歴史を乗り越え、1948年(昭和23)からは、現在の場所で県立広島病院として再発足し、県民の健康に取り組んでいます。

1996年(平成8)には病院全体にわたる増改築工事も完了し、今では基幹病院としての大きな役割を担っています。



### 5-1-3 交通関連施設

#### 【広島港】 A-3-2

広島港は、旧宇品港を中心とする広島市および周辺に位置する港湾で、広島県が管理しています。特定重要港湾に指定され、海運・物流・貿易の重要な拠点です。

宇品地区の港には、広島港宇品旅客ターミナルがあり、四国地方や島々を結ぶ海上旅客交通の拠点となっています。

金輪島会航路：広島（宇品）～金輪島

上村汽船航路：広島（宇品）～江田島（切串）

芸備商船航路：広島（宇品）～能美（三高）

瀬戸内海汽船航路：広島（宇品）～松山（松山観光港）

似島汽船航路：広島（宇品）～似島

江田島市企業局航路：広島（宇品）～能美（中町・高田・能美ロッジ）

ファーストビーチ航路：広島（宇品）～宮島

　　広島（宇品）～江田島（切串）

　　広島（宇品）～江田島（切串・小用）

また、瀬戸内を巡るクルーズ船も行き来しており瀬戸内海の多くの美しい島々を楽しむこともできます。

#### 【宇品外貿ふ頭】（一万トンバース） A-3-3



1970年（昭和45）に完成した宇品外貿ふ頭は、海外からの大型客船やマツダ車の積み出す貨物船などにぎわっています。

平和都市広島に立ち寄る外国客船は年間20隻以上です。

岸壁延長 第1～第4バース（貨物船）：740メートル

第5バース（客船優先）：280メートル

#### 【宇品灯台】 B-4

1950年（昭和25）1月27日に初点灯した宇品灯台は、高さ20.95メートル（水面から45.52メートル）あります。

毎年、海の日（7月第3月曜）前後の休日と灯台記念日（11月1日）前後の休日などに一般公開されています。

#### 【広島港入口赤灯台】 B-5



広島市の海の玄関広島港へ出入りする船を導く高さ20メートルの灯台です。

広島湾の島々や四国地方などを結んで多くの船が右手に赤、左手に白の灯台を確認しながら広島港へ入港してきます。これらの灯台は、船舶交通の安全を守っています。



## 【広島高速道路 3 号線】 A-34



広島高速道路 3 号線は、南区仁保ジャンクションから西区観音新町四丁目に至る延長 7.7 キロメートルの路線で、廿日市インターチェンジまで延長すれば、山陽自動車道の広島インターチェンジ周辺が混雑しなくなると期待されています。2010 年(平成 22) には宇品出入口から吉島出入口までが供用開始となりました。

この道路建設のため、宇品海岸地区の古い町並みが消え、町の様子が変わってしまいました。

## 【広島電鉄宇品線】 A-35



広電の市内電車は、1912 年(大正元)に開業しました。

宇品にその姿をあらわしたのは、1915 年(大正 4)の、「御幸橋東詰～向宇品」間の単線運行の時からです。その当時、宇品小学校西側の海に面した堤防沿いを走っていたことから、「堤防下線」と呼ばれていました。1935 年(昭和 10)の戦争の激化に備えて現在の電車通りに複線化して移設しました。

原爆により電車もかいめつのひがい被害を受けましたが、3 日後には、己斐から西天満まで運行を再開しました。現在でも被爆した車両が 2 台現役で走っています。

## 【御幸橋】 A-36

御幸橋は、1885 年(明治 18)木桁橋として架けられました。

1931 年(昭和 6)コンクリート桁に架け替え、市の中心部と宇品地区を結ぶ交通の大重要な橋として、大きな役割を果たしてきました。1945 年(昭和 20)8 月 6 日の原爆



投下時、多くの被爆者がこの橋を渡って宇品へと避難しました。橋上は大混乱、むごたらしくて痛ましい様子でした。広島の歴史を見守ってきた橋は、1990 年(平成 2)に現在の橋に架け替えられました。

宇品港を作る頃は川口橋とよばれていましたが、1885 年(明治 18)に明治天皇が広島を行され、この橋を通過されたことを記念して「御幸橋」と呼ぶようになりました。

**5－1－4 その他**  
【出島処理場】 A－37



1983年(昭和58)に完成した出島処理場は、くみ取り便所からのし尿<sup>による</sup>を処理するし尿<sup>による</sup>処理施設と浄化槽<sup>おでい</sup>汚泥処理施設の2つの役割を持っています。両施設とも1日に300,000リットルを処理する能力があります。

安芸区および東区の一部(旧安芸町)を除く広島市全域から集められたものを処理しています。

**【広島競輪場】 A－38**

1952年(昭和27)に競輪場建設工事が完了<sup>かんりよう</sup>し、第1回広島市営競輪を開催しました。その後も、施設を拡充・整備し、1994年(平成6)には、アジア大会自転車競技のメイン会場として使用され、今多くの競輪ファンに親しまれています。一周400メートルもの大きなバンクがあります。



**【出島福祉センター】 A－39**



生活文化と社会福祉の向上を目的として、2009年(平成21)に出島屋内プールの隣に建設されました。

多目的ホール・トレーニング室・料理室や会議室などが設置されており、社会福祉センターの設置目的と一致する使用であれば、無料で使用することができます。

**【出島屋内プール】 A－40**

南区スポーツセンターが管理運営する出島屋内プールが出島一丁目に2008年(平成20)に建設されました。

床が可動式の25メートルの温水プールで、歩行専用プールやトレーニング室も備えています。



**【宇品体育館】 A－41**



南区スポーツセンターが管理運営する宇品体育館が宇品海岸三丁目に1983年(昭和58)に建設されました。

大小2つの体育室と会議室・シャワー室・ミーティングルームなどの施設を備えています。

## ◇ 5-2 民間施設

### 5-2-1 工場等産業施設

#### 【マツダ（株）本社工場宇品地区】 A-42

マツダは、1920年(大正9)に東洋コルク工業株式会社として設立されました。その後、1931年(昭和6)に三輪トラックの生産を開始し、戦後の1960年(昭和35)に軽乗用車を発売して自動車の製造業者としての道をあゆみはじめました。



(マツダ株式会社提供)

本社工場宇品地区は、1967年(昭和42)に実用化したロータリーエンジンを現在も世界で唯一量産している工場です。また同地区内には、マツダミュージアムという自動車産業見学施設があり、全国各地や外国からも年間6万人以上もの見学者が訪れています。

#### 【株式会社 熊平製作所】 A-43



創業は、1898年(明治31)に熊平源蔵が金庫の販売や修理を行う熊平商店を天神町(現・平和公園内)に開いたことに始まります。宇品には、1938年(昭和13)に広島工場を新設し、その5年後に株式会社熊平製作所として独立しました。

110余年にわたる安心と安全のノウハウを基に、国内最大手の金庫メーカーへ成長した熊平製作所は、金庫だけでなく総合的なセキュリティ企業として、入退室管理システムや監視カメラ・セキュリティゲートなどのシステム製品の開発・製造も行なっています。

1931年(昭和6)に創刊した「抜萃のつづり」は、クマヒラ最大の文化事業です。書籍、雑誌、新聞などから心に残る記事を抜粋してまとめたもので、戦時中を除いて絶えなく毎年1回発行しており、45万部を全国の8万ヶ所に無料でお届けしています。

### 5-2-2 商業施設

#### 【宇品ショッピングセンター】 A-44

終戦後の「青空市場」から続く歴史ある商店街で、店の数は約30店舗です。一番にぎわっていた頃は、約60店舗が立ち並んでいました。広電宇品線「宇品五丁目電停」の東側にあります。



スーパーにはない人ととのふれあいが楽しめるお店です。

#### 【宇品西地区の大型ショッピングセンター】 A-45



宇品西地区の再開発として、家電量販店「デオデオ」やスポーツ用品店、玩具店、スーパーなどで構成される「ベイシティ宇品」があり、周辺には多くのマンションが立ち並んでいます。

近くには、大規模ホームセンターや新しい「ゆめタウンみゆき店」もあり街の魅力は一段と増しています。

## 【宇品東地区の大型ショッピングセンター】 A-46

2004年(平成16)にオープンした大規模商業施設「イオン宇品ショッピングセンター」は、核テナントのジャスコを中心に50をこえる専門店が入っています。

近くには、家電量販店「コジマニュー広島店」やマツダのショールームがあり、魅力ある地域に変化しています。



## 【船田船用品 株式会社】 A-47

広島港のウォーターフロントエリアに位置し、戦前からの船具屋の老舗です。建物は、船具屋だけに「海」をキーワードとした造りとなっており、2階の中央には、海にみたてた円形の池を配置し、それを囲む店舗には世界各地から取り寄せられたアンティークな品々が並んでいます。水を内包する2階のアンティークショップと、深海にみたてた1階の船具屋といった建物のコンセプトで、建築家の武田正義氏に設計を依頼しました。



平成11年度には、ひろしま街づくりデザイン賞を受賞しました。

## 【株式会社 酒商山田】 A-48



1931年(昭和6)創業のお酒販売の老舗です。戦時中は軍事上の物資も取り扱っていました。

戦後は、地元になくてはならない酒屋として親しまれ、現在は、全国の日本酒と本格焼酎を扱う専門店として知られています。店内に入ると、並んだたくさんの銘柄におどろきます。



## 【元気もりもり たかもり】 A-49

1954年(昭和29)に、創業者高森壯青が御幸通りに3坪ほどのみそ・しょうゆのはかり売りの店を開きました。1958年(昭和33)に店を宇品東七丁目に移し、地元宇品の代表的な食料品スーパーとして現在に至っています。地元だけでなく、遠方からの買物客で連日にぎわっています。

## 【グランドプリンスホテル広島】 B-6

元宇品の南東端にあるホテルは、1985年(昭和60)頃まであつた宇品造船所の工場跡です。

1994年(平成6)に広島プリンスホテルとして生まれ変わり、2007年(平成19)には、温泉施設を加え、「グランドプリンスホテル広島」として国内外から年間120万人の来客と25万人の宿泊客を迎えていました。



またホテルの前には、マリーナが設けられ「ひろしま海の駅」に登録されています。

## § 6. 生活と行事

### ◇ 6-1 まつり

#### 【広島みなど祭り 夢 花火大会】 A-33



会場は、一万トンバース、沖合いの台船から豪快な10号玉の打ち上げ花火や海上スターマインなど10000発の花火が夜空を彩ります。

2003年(平成15)から「広島みなど祭」と「太田川花火大会」を統合して、7月の第4土曜日に行われ、広島の夏の訪れを告げる風物詩となっています。一万トンバースから海岸通り、元宇品一帯は多くの見物客でいっぱいになります。

また、2010年(平成22)には、当日の昼間に御幸松広場で、地元の商店街による「宇品サマーフェスタ」が行なわれました。

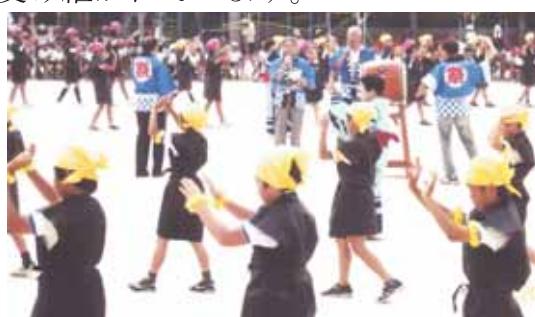
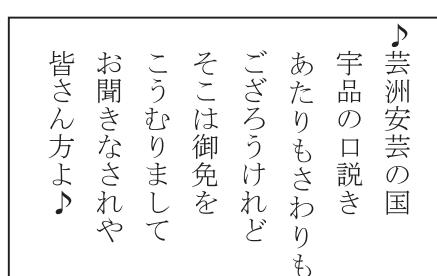
#### 【神田神社の秋まつり】 A-5

宇品中央部(現御幸通り四丁目付近)でけんか神輿が行われ、神社に詣でるといったもので、勇壮な若者たちでぎわっていました。(現在は、けんか神輿は行われていません。)10月第3土・日に行われ、まつり期間中は夜店が立ち並び、夜遅くまでぎわっています。



#### 【宇品踊り】

宇品港が開港し全国から人々が集まることから、各地の踊りが伝えられ、七拍子の「宇品踊り」はいつの間にか宇品独特のものとして根付き育ったものです。盆踊りには、「宇品踊り」と「大河踊り」が合流し、朝一番電車が通るまで踊りつけられにぎやかなものでした。その後、盆踊りが下火となる昭和の末頃には「宇品踊り」は途絶えてしまいました。1999年(平成11)に宇品東青少年育成協議会による盆踊り大会で復活した「宇品踊り」は、今も「宇品踊り保存会」により伝統文化として受け継がれています。



## ◇ 6-2 宇品の料理・菓子

宇品は、海の近くですが、歴史が浅く漁村ではないことから、近くの丹那の港に水揚げされた魚介類を押し車に乗せ、売り歩く行商の人たちがたくさんいました。

そのため、小いわし、ハマグリ、あさりなどの魚介類が多く食べられていました。小いわしは「七度洗えば、鯛の味がする」と言われ、刺身、天ぷら、いわしだんごなどの食材となっていました。

そのほかに、いりこ、貝の身、にんじん、ごぼうなどを使った「ちらし寿司」がよく食べられていました。

### 【宇品だんご】

戦後の1946年(昭和21)頃の食糧難の時期に貢献したのが、「宇品だんご」で、大和糧食工業株式会社で作り始められたといわれています。

主に米の糠(ぬか)、酒の糟(かす)、野草を使い、つなぎに大豆の絞りかすから造る澱粉を入れ、蒸して造ったものです。その野草とは、旧国鉄宇品線の土手によく生えていた通称「鉄道草」(ヒメムカシヨモギ)で、鉄道草は茎も葉も全部使っていたそうです。おいしいとはいえないものでした。



### 【かつばえびせん】

宇品だんごを造っていた大和糧食工業株式会社から1949年(昭和24)に独立した松尾糧食工業株式会社は甘い物が良く売れた戦後に、甘さを売り物とした「カルビーキャラメル」を販売していました。カルビー製菓と社名を変更した1955年(昭和30)頃は、米不足であったため小麦粉の人造米を煎ってようゆで味付けした「かつばあられ」の新製品を発売しました。当時としては味、品質、値段からも市民にたいへん好評でした。その後、広島の川や海岸でよく獲れた小エビを使った「かつばえびせん」が1964年(昭和39)に登場し、「やめられない、とまらない」のCMソングでおなじみのヒット商品となりました。

さらに1973年(昭和48)に社名をカルビー株式会社に変更し、本社を東京に移転しました。広島工場は2006年(平成18)に宇品御幸一丁目から廿日市市に移転し、現在はカルビー株式会社の発祥の地の看板も撤去されています。(宇品西公園の北側にカルビー株式会社がありました。)



(カルビー株式会社発祥の地の看板)



## § 7. 自然と歴史

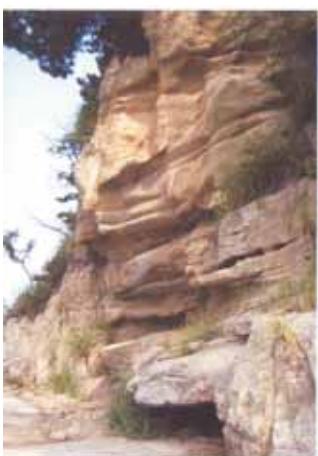
### ◇ 7-1 元宇品の自然と歴史

#### 【元宇品(宇品島)】

元宇品は、短い橋で宇品と結ばれた周囲約3キロメートル、標高52キロメートルの小島です。元宇品の地名は、かつては、牛がうずくまった形をしていることから牛ノ島、牛名島、牛奈島、宇品奈島、宇品島などと呼ばれていました。明治時代に島の対岸が宇品と称したことから、元宇品町となりました。

元宇品は、半分以上が温帯広葉樹の原生林の森で、周辺は自然海岸が残り、山上の灯台、安芸小富士といわれる似島や宮島を見渡せるスポットなど魅力いっぱいの小島です

#### 【元宇品の自然】



B-7 (波食崖)

元宇品の原生林の森は、国有林が22ヘクタールにもおよび、1950年(昭和25)には、瀬戸内海国立公園特別地域に指定されました。

森は、常緑高木のクスノキ、タブノキや落葉高木のアベマキ、コナラなどが混在し、南端灯台前のクスノキは樹齢およそ150年で、樹高27.2メートル幹回り5.5メートルの巨木です。

林野庁でもこの森を県内4箇所の自然観察教育林の一つに選定しています。

また、西海岸では、縄文時代の約6,000年前の海面上昇の証拠となる波食崖や露出した断層などの珍しい地層が見られます。

なお、このような貴重な森が残ったわけは、島の中央にある觀音院(現在の觀音寺)の秘仏十一面觀世音菩薩(平安時代の征夷大將軍坂上田村麻呂の戦のお守り)にあります。この秘仏を毛利氏、福島氏、浅野氏ら歴代の広島城主が厚く信仰し、森の伐採を禁じ藩有林にしたことによります。そして、森は1902年(明治35)に国有林となり守られてきました。

また、元宇品の東側は住宅が密集していますが、元の海岸線を示す石積み、常夜灯などがあり、古い面影を残す場所がいくつもあります。西側は、磯も砂浜も干がたもあり、タテジマイソギンチャク、ヒライソガニなど約70種の海岸動物、ネザシハネモ、フシツナギなど約230種の海そう、オオゴキブリ、キンカメムシなどのこん虫、ハクセキレイ、コゲラなどの鳥類も数多く見られます。樹木は、クスノキ、タブノキなどの極相林を構成し約100種、草本約80種が生育しています。森は常緑広葉樹で覆われ、年中変わらない緑を保っています。



#### 【元宇品の歴史】

宇品島の最初の住人は、戦国時代に中国地方の戦乱により居住地を追われた武系家族が1560年(永禄3)頃に住み始め、次いで、明智光秀の敗戦で明智領を追われた有力者の数家族が、1582年(天正10)頃に琵琶湖から淀川を下り、瀬戸内海を渡りこの島にたどり着き

定住したと伝えられています。その後、江戸時代の書物「芸藩通志」には、島の東側に 2 つの港と 40 戸程の集落しゅうらくがあったと書かれ、住民は船で荷物を運ぶ仕事を営んでいました。

明治時代に対岸の宇品の干拓地が広がり 1889 年(明治 22) に堤防ていぼうにより陸続きとなりました。

### 【元宇品の魅力スポット】

元宇品の原生林内には、遊歩道が整備されており、特に秋から春にかけて森林浴が楽しめます。西海岸は、広島隨一の夕日の名所で中央部の觀音寺には、秘仏のほか市の重要文化財指定の阿弥陀如来像あみだにょらいぞうがあります。境内には色どり豊かなヒロシマツバキが、寺の入口には、広島県で唯一の横綱となった第 37 代横綱安芸ノ海のぞの墓めいがあります。また、島の南端の山の上には灯台があり、南端から臨む似島との間の海峡かいきょうは、約 2~3 万年前の氷河期には海面が下がり、一面の草原にはナウマン象りんかいが群っていました。そのナウマン象の化石がこの海峡から引上げられ、現在、似島にある広島市似島臨海少年自然の家に展示されています。

昭和天皇が皇太子の頃、1926 年(大正 15)に宇品を視察された時、元宇品の森をご覧になり、この森を一般の人達が立入り観賞研究できるようにしてはどうかとご提案され、翌年の 1927 年(昭和 2)に森の中及び西海岸線に細い原生林観察巡回遊歩道じゅんかいいゆうほどうが設けされました。

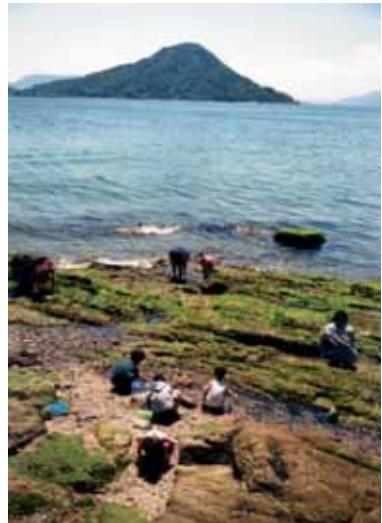
(次頁マップ参照：昭和天皇ゆかりの小道)

B-8



宇品灯台とクスノキの大木

B-9



元宇品と似島との海峡でナウマン象の化石が引き揚げられています



金輪島から鳥が種を運んだハゼノキの紅葉(11月下旬頃)

B-10



西海岸は広島隨一の夕日の名所  
(写真：日浦整爾さん提供)



## ◇ 7-2 金輪島の自然と歴史

金輪島は、外貿ふ頭 1万トンバースの向かいに位置し、周囲約 5 キロメートル、面積 100 ヘクタール、標高 158 メートルの島です。江戸時代には、広島呉街道の坂海岸から鉄輪が地面に置かれた形狀に見えたことから鉄輪島と呼ばれていました。島の南半分は山林で、北東部に造船所「新来島宇品ドック」があります。居住者は一般民家約 40 人、造船所の寮に約 100 人のほか、広島市内等からの通勤者が、約 250 人います。

江戸時代中期まで無人島でしたが、1749 年(寛延2)に京橋の平野屋茂右衛門が島にハゼノキを植え、1760 年(宝暦10)頃に和ろうそく工場を設けました。そのため島には、商工業者も集まって町ができました。しかし、原料のハゼの実が計画どおり実らず、1770 年(明和7)に事業を中止したため、人々は島を去り再び無人の島となりました。今もこのハゼノキ園のなごりのハゼノキが、北東部に数多く残っています。

1894 年(明治 27)に日清戦争が始まると、宇品港は陸軍の軍事基地となり金輪島には、陸軍の造船工場が設けられ、島全体が民間人は立入り禁止となりました。戦後、この工場は民間の造船所に引き継がれました。

島のほとんどが山林で、江戸時代初期からもともと大木の少ない島でしたが、1967 年(昭和 42)の山火事により、約 70 ヘクタールが焼失したため、今もあまり大木は見られません。

現在、金輪島へは市営桟橋から 1 時間に 1 便程度の定期船がでており、約 15 分で到着します。



写真中央が金輪島



島の北東部道路の両側には、ハゼノキ林が残っています



金輪島の造船所



金輪島トンネル:1996 年  
(平成8)に開通(延長 290  
メートル)

## § 8. 人物

### ◇ 8-1 築港

＜千田 貞暁＞（せんだ さだあき） 1836年—1908年

江戸時代のおわり、薩摩藩の武士の子として、今の鹿児島県に生まれ、幼いころから父のきびしい教えを受け、武芸と学問の両方を学びました。青年のころは、幕末から明治維新にかけ、世の中がゆれ動く時代でしたから、薩摩藩士として日本各地で戦っていました。

明治時代になって、1872年(明治5)東京府の職員になり、1880年(明治13)広島県知事(当時は県令)として広島にきました。よく考えて計画したことはおもいきって実行し、ときには大声を出して人をしかり、また、春風のような暖かさを持った人柄であったといわれています。



千田貞暁は、広島の発展のためには、道路や港をよくして品物を運びやすくし、人が行き来しやすくなることが大切であると考えました。1884年(明治17)から始められた宇品港をつくる工事は、思ったよりむずかしくお金と時間がかかり、お金が足りないので自分のお金までもだしてやっと5年後に出来あがりました。しかし、1891年(明治24)の港の完成式の前に、多くの国の費用を使ったばつとして、新潟県知事に転任させられました。その後、和歌山、愛知、京都、宮崎の県知事を勤めています。

千田貞暁は『人は人といっしょに生きている。1日1回 人に喜んでもらえることをしなさい。1日3回 人に感謝しなさい』と自分の子どもに言ったということです。

1908年(明治41年)72歳で東京でなくなりました。その後、広島港は日本でも重要な港となつたため、政府はその行いをほめ、くん章をあたえました。広島でも、宇品に千田廟公園をつくり、銅像をたてて、彼のしたことをたたえています。

### ◇ 8-2 教育

＜田中 イト＞（たなか いと） 1885年—1934年

うじな保育園の創立者であり、<sup>こうりよう</sup>広陵中学校(現、広陵高等学校)の創立者一人です。大阪に生まれましたが、田中喜四郎と結婚して宇品で教育や社会奉仕のためにつくしました。



宇品尋常小学校(現、宇品小学校)が宇品神田五丁目にあったころの1909年(明治42)、教育施設がととのつてなかつたので、運動場のしき地2,600ヘイホウメートルを無料で貸し、さらに1915年(大正4)には「<sup>しょうがくかん</sup>奨学館」を、学校の講堂や地区の集会所として提供しています。

1921年(大正10)には鶴虎次郎氏とともに、宇品町(千田廟公園の南)に広陵中学校を設立しました。1928年(昭和3)に「うじな保育園」のもとになる「宇品学園」を開園する時には、しき地や多くのお金を出しています。

## ◇ 8-3 芸術

### <近藤芳美> (こんどう よしみ) 1913年-2006年

戦後の日本を代表する歌人として活躍しました。朝日新聞、中国新聞、  
しなの  
信濃毎日新聞の読者から送られてくる短歌の選者をつとめました。また、  
工学博士で建築家でもあり、神奈川大学工学部教授でもありました。



韓国で生まれたが父の郷里で勉強するため、旧制広島高等学校(現、広島大学)に入学しました。広島県出身の歌人、中村憲吉を訪ね、「アララギ」に入会して、短歌の勉強をし、平和を求める心を歌のなかにこめた作品を多く発表しました。「現代歌人協会」の理事長もつとめました。

波止場公園には、歌碑「陸軍桟橋と ここを呼ばれて 還らぬ死に 兵ら發ちにき 記憶をば継げ」があります。近藤芳美は、1940年(昭和15)この港から、戦地に行っています。

### <旗野 十一郎> (はたの たりひこ) ?年-1908年

越後国北蒲原郡保田(現、新潟県阿賀野市保田)生まれ。明治のはじめ東京に出て勉強し、のちに東京音楽学校(現、東京芸術大学)の国語教師として迎えられています。旗野氏について、くわしいことはわかっていないが、「川中島」「菊」など作詞されたものがいくつか発表されています。唱歌「港」の作詞者として広く知られています。

### <吉田 信太> (よしだ しんた) 1870年-1953年

宮城県出身。東京音楽学校卒業。福島県、香川県の小学校に勤務したのち、広島高等師範学校(現、広島大学)に数年務めています。そのとき、宇品港をイメージして「港」を作曲したといわれています。そのころ、勇ましい曲が多いなかで、3拍子を日本人に紹介し、唱歌集には1896年(明治29)にのせられました。

その後、神奈川県の一中、三中、市立神奈川女学校に務めました。

## ◇ 8-4 スポーツ

### <安芸ノ海 節男> (あきのうみ せつお) 本名 永田 節男 1914年-1979年



広島県出身の力士で横綱になったのは、第37代 安芸ノ海 節男だけです。安芸ノ海は、宇品の食料品商の長男として生まれ、宇品小学校を卒業しています。子どものころから体格がよく、宇品港に入港する船から食料を小さい船に積みかえて運ぶ家の仕事を手伝っていたので足腰がきたえられました。

1931年(昭和6)に出羽ノ海に入門し、西前頭3枚目であった1939年(昭和14)1月場所4日目に、69連勝中の 横綱 双葉山との初対戦に

左外掛けで破ったことは、長く語りつがれることとなりました。力士としては小柄な安芸ノ海の勝利は、両国国技館のファンを熱狂させたそうです。その年の4月には、宇品小学校の土俵開きに出席しています。1942年(昭和17)には、横綱に昇進しています。永田家の実家は宇品海岸二丁目にありましたが、広島南道路建設で宇品御幸五丁目に転居されました。安芸ノ海の墓は、元宇品の観音寺入口の永田家の墓地にあります。

# 港

作詞  
旗野十一郎  
柳信  
作曲  
林吉田

そーらもみなともよははれて  
つきに数ます船のかげ  
はしけのかよいにぎやかに  
よせくるな一みもこがねなり

空も港も夜ははれて  
月に数ます船のかげ  
端艇の通いにぎやかに  
寄せくる波も黄金なり

はやし  
はやし  
はやし  
はやし

## 【林柳波作詞による第二節】

吉田 信太（一八七〇～一九五三）は仙台生まれ。

東京音楽学校卒。広島高等師範教授、神奈川県第一、第三中学校教諭などを勤め、音楽教育の研究と指導に力を尽くし、作曲した校歌も多数ある。

この歌は昔、小学校や女学校などでよく歌われた。最近の港の光景は、昔と大分変わったが、大きな汽船が出入りして昔以上に素晴らしい。

## 【解説】

これは、明治二九年『新編教育唱歌集・三』に掲載された歌で、第一節と第二節を旗野十一郎が書き、のちに、林柳波が第二節を補作した。

この歌は大正時代によく歌われ、空路のなかつた時代に港は世界に通じる唯一の発着場でした。夜になつてもつづく港の活気が、明るく軽快なリズムに乗つて表現され、当時の港の光景が表されている。

マストが林立し、船じるしの旗が大きな花のように咲きほこつて、港は春のように美しいと歌つている。

はな  
み  
ふなじるし

## A マップ 宇品地区

- 31.県立広島病院
- 32.広島港
- 33.宇品外貿ふ頭
- 34.宇品高速道路3号線
- 35.広島電鉄宇品線
- 36.御幸橋
- 37.出島処理場
- 38.広島競輪場
- 39.出島福祉センター
- 40.出島屋内プール
- 41.宇品体育館
- 42.マツダ(株)本社工場宇品地区
- 43.株式会社 熊平製作所
- 44.宇品ショッピングセンター
- 45.宇品西地区ショッピングセンター
- 46.宇品東地区ショッピングセンター
- 47.船田船用品 株式会社
- 48.株式会社 酒商・山田
- 49.元気もりもり たかもり
- 50.旧カルビー広島工場

ペイントライ 45

宇品西5

ENEOS

28

広島都市学園大

37 出島処理場  
39 出島福祉センター  
40 出島屋内プール

フレスター

宇品西4

47

広島同

48

21

まこう

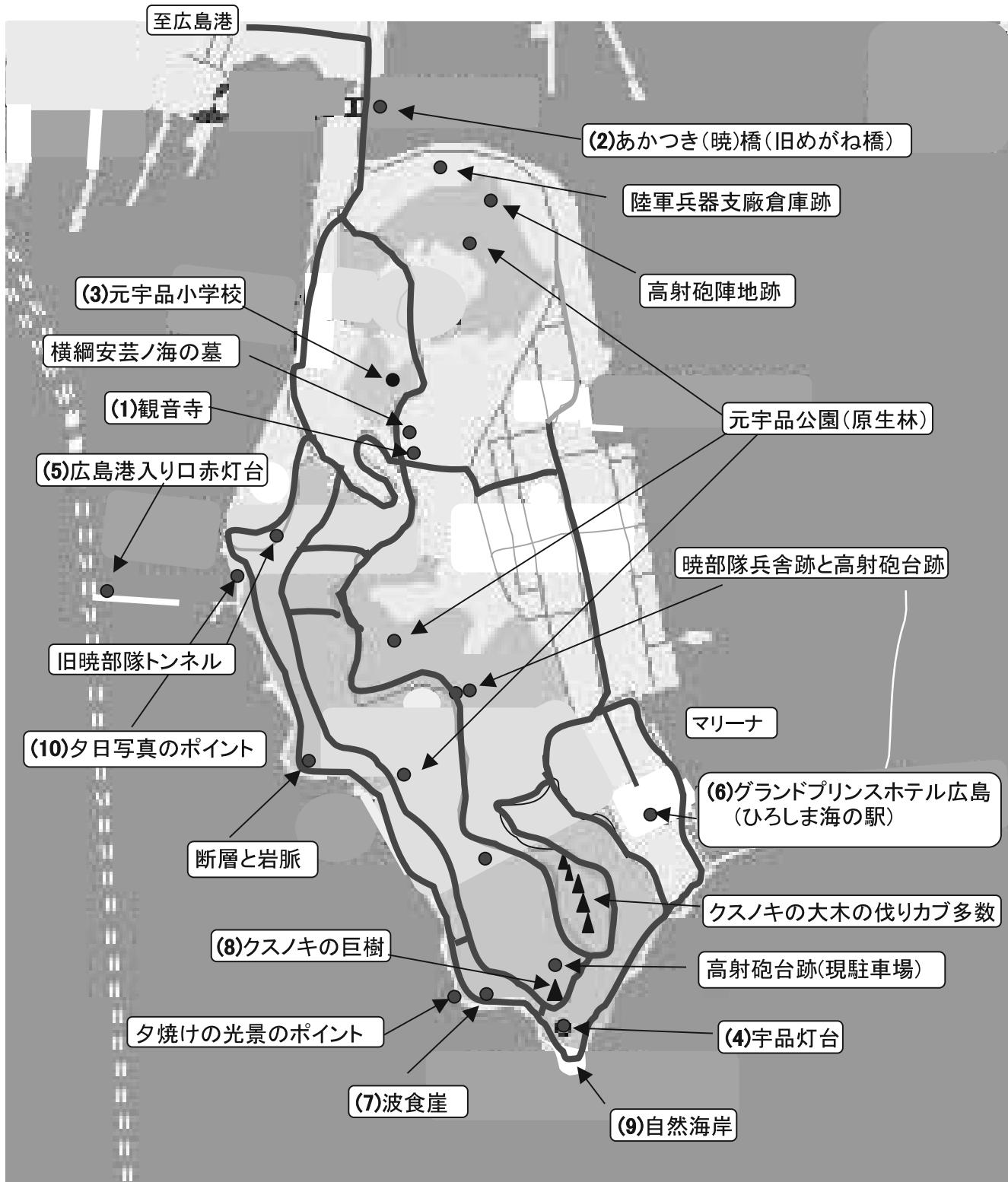
32 ミナル

30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10  
宇品公民館  
広島港湾合同庁舎  
宇品学園大学  
県立広島大学  
宇品中学校  
宇品小学校  
宇品第二公園  
宇品第一公園  
広島みなと公園  
御幸松記念碑  
中国配電南部変電所  
御幸松公園  
運河計画  
広島水上警察  
宇品小西桜土手  
路面電車旧宇品線  
宇品東小学校  
宇品線モニュメント  
モニュメント  
宇品中央公園  
宇品波止場公園  
宇品陸軍糧秣支廠倉庫  
7 平和塔  
6 千田廟公園  
5 神田神社  
4 法雲寺  
3 善徳寺  
2 法真寺  
1 千曉寺



30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10  
宇品公民館  
広島港湾合同庁舎  
宇品学園大学  
県立広島大学  
宇品中学校  
宇品小学校  
宇品第二公園  
宇品第一公園  
広島みなと公園  
御幸松記念碑  
中国配電南部変電所  
御幸松公園  
運河計画  
広島水上警察  
宇品小西桜土手  
路面電車旧宇品線  
宇品東小学校  
宇品線モニュメント  
モニュメント  
宇品中央公園  
宇品波止場公園  
宇品陸軍糧秣支廠倉庫  
7 平和塔  
6 千田廟公園  
5 神田神社  
4 法雲寺  
3 善徳寺  
2 法真寺  
1 千曉寺

## B マップ 元宇品地区（宇品島）



# みなとまち宇品懐かしき情景

【宇品の町並み】



【国鉄宇品線沿線風景】

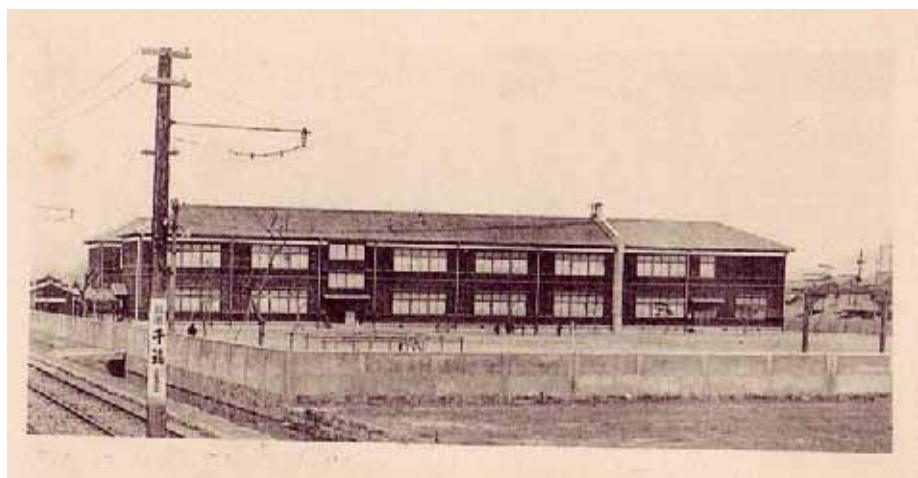


(写真：長船友則さん提供)

廣島市宇品尋常高等小学校【昭和5年頃】 (現：広島市立宇品小学校)



灯台を模した正門の門柱と言われている



校舎手前の線路は、小学校西側の土手下を走る路面電車旧宇品線

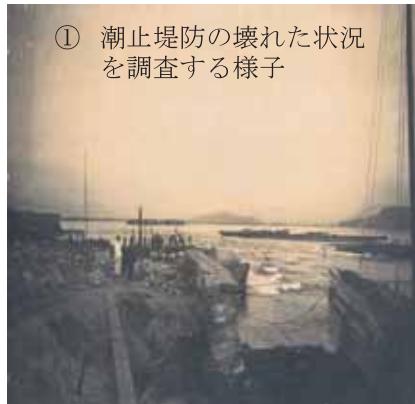
(写真：橋本雅子さん提供)

## 【明治の港湾建設：潮止堤防復旧工事】

宇品港完成後の1900年(明治33)8月19日、宇品港海岸の潮止堤防が大型大風の高波により壊れました。その時の壊れた状況および修復状況の様子です。

(写真：土木学会図書館・明治の港湾建設・宇品港より抜粋)

① 潮止堤防の壊れた状況を調査する様子



② 壊れた箇所の単床沈下を調査する様子



③ 杭打工事及び鉄道の壊れた状況



④ 潮止工事の様子

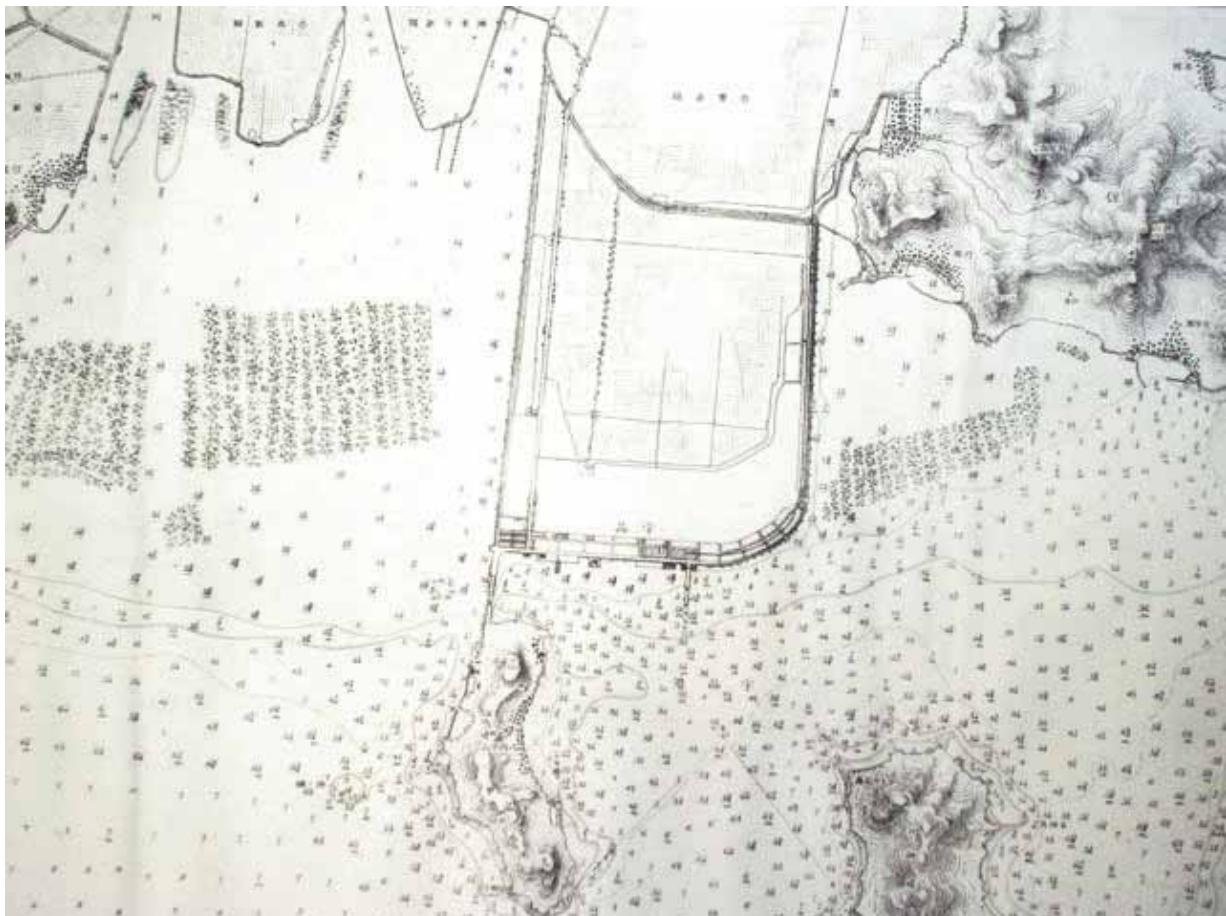


⑤ 潮止工事が終了し江木知事が労働者の勞をねぎらう様子



## 【1895年(明治28)当時の広島湾の状況】

(海図：海上保安庁 第六管区海上保安本部提供)



# 懐かしの広島港

(航空写真：昭和 40 年代)



(写真：船田和江さん提供)

(広島市公文書館提供)



広島市営さん橋付近



元宇品から金輪島の方向



戦前の宇品港

## 「うじな通になろう」の製作協力者

宇品東女性会有志	南区宇品東地区
特定非営利活動法人 おりづる広島	南区宇品西四丁目
川本耳鼻咽喉科医院	南区宇品神田一丁目
国政内科医院	南区宇品神田四丁目
株式会社 熊平製作所	南区宇品東二丁目
グランドプリンスホテル広島	南区元宇品町
河内歯科医院	南区宇品西四丁目
ソットスタッツィオーネ	南区宇品御幸三丁目
株式会社 たかもり	南区宇品東七丁目
中国新聞宇品北販売所	南区宇品東一丁目
船田船用品 株式会社	南区宇品西四丁目
元宇品町内会	南区元宇品町
「うじな通」検定実行委員会委員	南区宇品御幸四丁目

広島市「住民に身近な地区別まちづくりビジョン」推進費補助金事業(南区役所)

## 「うじな通」検定実行委員会委員

委員長	竹田 勇	宇品ことぶき学園大学長
副委員長	増田 義法	観光アシスタント協会会員
委 員	塚田 淑子	宇品東女性会会长
〃	西丸 恵美子	宇品女性会会长
〃	野田 雄司	アートクラブ代表
〃	柳原 康明	パソコンくらぶ代表
〃	湯出原 元	しいの実会（自然観察指導員）
〃	稻坂 恒宏	広島市郷土資料館主任
〃	的場 浩司	仁保公民館長（南区調整公民館）
〃	道端 庄司	宇品公民館長
〃	片山 京子	宇品公民館専門員

### 編集にあたって

宇品の歴史や自然をできるだけ多くの人に知ってもらい、そしてまちを歩いていただきたいと思ってはじめた「うじな通検定」も、今年で4年目をむかえました。まち歩きや検定のときに、小学生や中学生の参加もありました。その時、テキストに読めない漢字があったり、意味がわからない用語があると聞きました。そこで、今年は家族同伴の参加も願って、これまでのテキストをもとに出来るだけ読みやすいテキストにしようと実行委員会で話がでました。

小学校高学年にもわかるテキストをめざしたのですが、歴史用語や専門用語は、やさしい言葉にすると意味がちがってくる場合があり、また編集委員が不慣れでもあってなかなか大変でした。

このテキストを「やさしい宇品事典」として活用していただき、多くの人に宇品をすきになっていただくことを願っています。



「うじな通」検定実行委員会 副委員長 増田 義法

※記載内容の誤りや新たな情報がありましたら、資料提供とともにご連絡ください。

## 「うじな通」検定実行委員会委員

委員長	竹田 勇	宇品ことぶき学園大学長
副委員長	増田 義法	観光アシスタント協会会員
委 員	塚田 淑子	宇品東女性会会长
〃	西丸 恵美子	宇品女性会会长
〃	野田 雄司	アートクラブ代表
〃	柳原 康明	パソコンくらぶ代表
〃	湯出原 元	しいの実会（自然観察指導員）
〃	稻坂 恒宏	広島市郷土資料館主任
〃	的場 浩司	仁保公民館長（南区調整公民館）
〃	道端 庄司	宇品公民館長
〃	片山 京子	宇品公民館専門員

### 編集にあたって

宇品の歴史や自然をできるだけ多くの人に知ってもらい、そしてまちを歩いていただきたいと思ってはじめた「うじな通検定」も、今年で4年目をむかえました。まち歩きや検定のときに、小学生や中学生の参加もありました。その時、テキストに読めない漢字があったり、意味がわからない用語があると聞きました。そこで、今年は家族同伴の参加も願って、これまでのテキストをもとに出来るだけ読みやすいテキストにしようと実行委員会で話がでました。

小学校高学年にもわかるテキストをめざしたのですが、歴史用語や専門用語は、やさしい言葉にすると意味がちがってくる場合があり、また編集委員が不慣れでもあってなかなか大変でした。

このテキストを「やさしい宇品事典」として活用していただき、多くの人に宇品をすきになっていただくことを願っています。



「うじな通」検定実行委員会 副委員長 増田 義法

※記載内容の誤りや新たな情報がありましたら、資料提供とともにご連絡ください。

# 自然と歴史のみなとまち 宇品



## 「うじな通」検定実行委員会

事務局

財団法人 広島市ひと・まちネットワーク

広島市宇品公民館

広島市南区宇品御幸四丁目1番2号

電話・Fax 082-253-2529

<http://www.hitomachi.city.hiroshima.jp/ujina-k>



2010年(平成22)11月発行